



自らも青年期に調査や研究に没頭した経験のある大野氏は、そんな学生たちへの支援も惜しみませんでした。発掘場所の案内や宿泊場所や協力者の紹介など、自身と同じように自然の声に耳を傾け、夢を追う学生たちのために、大野氏は出来る限りの支援を行いました。

そんな中、大野氏が出会った当時学生だった石井健一氏。大野氏の支援を受けながら研究を続けた石井氏は、その後、黒瀬川構造帯を発見。大野氏の支援のおかげもあり、世界的に注目される地質学者に成長しました。そして石井氏は、その後発見した新種の化石に、大

1_大野作太郎氏のコレクションが展示された日吉地区・明星ヶ丘にある地質館 2_大野作太郎氏の肖像。温かい人柄で多くの人に慕われた 3_地質館に展示された大野氏が発掘した化石の一部。4_大野氏愛用の品も展示され、当時を偲ばせている



野氏の名前にちなみ「フズリネラシンプリカーターオーノイ」と名付け、大野氏への感謝の気持ちを表しました。

自らの研究だけではなく、関わる全ての人のために尽力した大野氏。人を思い、自然を思い、そして人から思われる温かい人柄あつてこそ築かれた功績だと言えるでしょう。

「鬼」となれ、故郷のために

かつて、故郷のためにと奔走した人たち
 1つのことを成し遂げようと
 必死になったその姿、その形相は
 まさに「鬼」そのものだったのではないのでしょうか。

そして、現在—
 今も鬼北町にはたくさんの「鬼」が住んでいます。
 農業に力を注ぐ人、
 伝統を継承していく人
 まちおこしを試みる人
 そんな「鬼」の力が
 今の鬼北町を支え
 成長させているのではないのでしょうか。

故郷を愛する「鬼」が住む町・鬼北町
 より多くの「鬼」の力が結集したとき
 この町の魅力は
 もっと輝きをみせることでしょう